

# 園長だより

二十五号令和元年六月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

## 最近の竹鼻保育園

三ヶ月近くなつてきました。子どもたちは保育園の生活に慣れてきたようです。これからプールがはじまりますので元気な声が園内響き渡り、生き生きとした子どもの顔を見ることが出来ます。

毎日の送り迎え、ご苦勞様です。これから雨の季節、傘をさして大変です。別院本堂の南側、蓮田の埋め立てがはじまりました。九月末には完成予定です。何かとご迷惑をかけます。この駐車場ができましたら、本堂前の駐車はなしにいたします。しかし、問題は雨の日です。雨降りにはどうしたらいいのか考えた末、駐車場から本堂



タマネギの皮 くさーい！たまるん！ すみれ1組です

南中段までと本堂北中段から保育園事務所前までアーケードを作り、園まで傘なしで来られるようにいたします。これらのことで、今までの渋滞が解消されることを願っております。

保育園の中が少し変わってきました。保育士の真剣な研修をとおして、保育の本質を考えてのことで、子どもたちがいかに楽しく園で過ごすことができるか、今、子どもたちに一番大切なことは何であるのか、それを育てるにはどうしたらいいのか、という保育の本質を考えて進めております。九時に「はじまりの会」を行っていましたが、今中断しております。保育園に子どもたちがきて、友達といろいろな遊びをしています。九時になると止めなくてはなりません。その遊びをもっとやり続けることができ、その遊びの中からいろいろなことを学ぶ時間を取るためです。小学校へ行くとお勉強が重要視されてきますが、保育園時代はその基礎を作る時期です。お勉強の基礎より大切なものがあります。一人の人間としての成長、大人になるために欠かすことができない心の成長をあげなくてはなりません。

あるお母さんと話していたら、子どもを遊ばせてばかりいたら小学校に入ってから幼稚園の子と差がついてしまうのではないかと、ということをおっしゃいます。前にも書きましたが、お母さんの気持ちはよく分かります。保育園でお勉強を教えることは少々問題があります。前にも書きましたが、保育園までの子どもたちには自分がみんなに愛され、大切にされていることを感じ取り、無意識のうちに自分を大切にしていきたいことが出来る自己肯定感を養育していくのです。自己肯定感が十分育たないうち

から、お勉強に力を入れすぎると、とんでもないことになりません。お勉強の世界は能力偏差値重視の競争世界です。できるできないという優劣の世界に突き落とされていきます。親としては、優秀な子であって欲しいため、試験の結果に敏感になり、そこでわが子を計っていく。わが子は親からいい子であると認めてもらいたいために、頑張る。しかし、いつまでもいい子であるわけにはいきません。どこかでいい子を止めてしまい、自分を駄目な人間であると否定的にし受け取ることができなくなってしまう。今の日本の高校生、七割以上が駄目な人間だと思っています。そして、親に反抗していくのです。みんながみんなそうなるわけではありませんが、この恵まれた日本に於いて大問題だといわなくてはなりません。

遊びの問題から話が展開してしまいました。保育園における遊びは、とても大切な時間です。遊んでばかりいて何にもならないというお母さんの感想なのですが、決してそうではありません。遊びこそが保育園時代の子どもにとつて一番大切な時間なのです。自分のやりたいこと、楽しいことをとことんやると、一日を満足に過ごすことができます。そこには子ども同士のトラブルがあり、泣いている子があつたかも知れません。やりたいことが一緒に、おもちゃの取り合いがあつたかも知れません。思い通りにならないことも経験するでしょう。そんな中、保育士の関わりから、自分は大切にされている、大事な子なんだという自己肯定感が育ち、更に友達との遊びから、人間関係を学び、お互いに大切な存在であることを感じとっていくでしょう。以上の理由から、お勉強よりも遊びが大切であることをご理解いただけたでしょう。

か。小学校三年生頃にはその差はなくなるそうです。

園長の趣味のようなこともあり、プランター管理をしております。今回はパンジーが去年の秋すぎから綺麗に咲いておりました。この六月まで咲き続け、驚いておられます。このことにより二つの思いもかけないことを子どもたちに経験させることができました。一つは花びらを潰して、色水を作ることです。保育士が花を取っていいかと聞くので、いいよと応えたら、それを潰して子どもたちと色水を作り、そのうちそれで障子紙に絵を描いて楽しんでいました。もう一つは、六月に入りパンジーの花も枯れ始め、捨てようとしたら、保育士がチョウチョウの幼虫がいるというのです。そういえば、けばけばしい色をした幼虫が結構いるのです。とても手に持つことはできない、持ったら刺されて腫れ上がるのでないかという感じなのですが、その幼虫がチョウチョウになるのと。さなぎも見せてもらい、納得したことです。子どもたちも大変な興味を持つておそろおそろ幼虫をさわりはじめました。私自身そのようなことを知りませんでしたので、興味深く見ました。今はその幼虫がチョウチョウ（ツマグロヒョウモンが正式名です）になり飛び回っています。これが生きた教材なのかな。子どもたちには毛虫はやはり危険なこともあるので、これは触ってもいいが他は駄目だということも教えております。

ダンゴムシも好きですね。毎朝、プランターの近くで取っています。第二園庭をできるだけ自然園のようにしたいと考えておりますが、このような昆虫の観察、魚の生態など実地で見られるといいですね。このような自然の生き物に対して子どもたちは目を輝かして興味を示しております。私も楽しくなっています。